

「合意形成学」セミナー各コース・クラスの番号、受講クラスとセッションの日程、受講料、および、シラバス

概要：

曜日・時間：水曜日・18:30-19:30、19:40-20:40（2時間）

実施形態：オンライン（Zoom）による実施（パソコン、アプリ、AV機材（マイク、スピーカ、Webカメラ等）、ネットワーク環境等のご自身でご準備下さい。）

対象：合意形成のプロセスや場のデザインにかかわる事業者、地域、自治体、市民の方々、環境政策における合意形成のアプローチや方法論を必要とするファシリテーター、NPO、当事者の方々、合意形成に関する教育や人材育成に携わっている教育機関、社会的企業、国際機関の方々、合意形成に関わる参加者同士のネットワークを構築したい方、など。

講師：坂野達郎、錦澤滋雄、豊田光世、高田知紀、猪原健弘

	①初回導入セッション	②「討議民主主義と合意形成」クラス		③「環境政策における合意形成」クラス		④「対話の場をデザインする」クラス		⑤「合意形成マネジメントの技術と戦略」クラス		⑥全体総括セッション
各セッションの講師	坂野達郎 錦澤滋雄 豊田光世 高田知紀 猪原健弘	(1) 坂野達郎 猪原健弘	(2) 坂野達郎 錦澤滋雄 猪原健弘	(1) 錦澤滋雄 猪原健弘	(2) 錦澤滋雄 豊田光世 猪原健弘	(1) 豊田光世 猪原健弘	(2) 豊田光世 高田知紀 猪原健弘	(1) 高田知紀 猪原健弘	(2) 高田知紀 坂野達郎 猪原健弘	坂野達郎 錦澤滋雄 豊田光世 高田知紀 猪原健弘
1.「合意形成の制度・プロセス・デザイン・マネジメント」（総合）コース	10/1	10/8	10/15	10/22	10/29	11/5	11/19	12/3	12/10	12/17
	番号：CB-2025-F-1 全10セッションの受講料：44,000円（税込）									
2.「合意形成の制度化とトランジション・マネジメント」コース	10/1	10/8	10/15							12/17
	番号：CB-2025-F-2 全4セッションの受講料：18,700円（税込）									
3.「合意形成のアプローチ選択とプロセス設計」コース	10/1	10/8	10/15	10/22	10/29					12/17
	番号：CB-2025-F-3 全6セッションの受講料：27,500円（税込）									
4.「合意形成における納得と対話の場のデザイン」コース	10/1	10/8	10/15	10/22	10/29	11/5	11/19			12/17
	番号：CB-2025-F-4 全8セッションの受講料：36,300円（税込）									
②、③、④、⑤の4クラスの中から選んで受講		10/8	10/15	10/22	10/29	11/5	11/19	12/3	12/10	
		番号：CB-2025-F-5 全2セッションの受講料：9,900円（税込）		番号：CB-2025-F-6 全2セッションの受講料：9,900円（税込）		番号：CB-2025-F-7 全2セッションの受講料：9,900円（税込）		番号：CB-2025-F-8 全2セッションの受講料：9,900円（税込）		
②、③、④、⑤の4クラスの各セッションのタイトル		②(1) 無作為抽出 市民による 討議：社会 実験から制 度化の動向	②(2) トランジ ション・マ ネジメント と合意形成	③(1) 市民参加と 合意形成	③(2) 環境紛争と 合意形成	④(1) 合意形成の レジティマ シー	④(2) 人びとが語 り始める場 をひらく	⑤(1) 合意形成マ ネジメントの 技術	⑤(2) 合意形成マ ネジメントの 戦略	

「合意形成学」セミナー各コース・クラス・セッションのねらいと概要

1. 「合意形成の制度・プロセス・デザイン・マネジメント」（総合）コース（セッション1〜10）

合意形成にはさまざまな視点が必要です。この「合意形成学」セミナーでは、「合意とは何か」、「合意形成とは何か」、「合意形成のためには何をすればいいのか」などの問いに対して受講生それぞれが自身の考えを手に入れることを目標に、合意形成のためのさまざまな視点を学びます。合意がどこで形成されるのか（世界・国家、地域、自治体、場）、合意で何が形成されるのか（制度、政策、プロセス、納得）、合意をどうやって形成するのか（制度、アセスメント、フレーム、ファシリテーション、デザイン、マネジメント、技術、戦略）について、視点を広範・グローバルなものから精緻・ローカルなものへと移動させながら、全10セッションを進めます。理念、理論、方法、技術、戦略、事例、実践、体験を通じて、合意形成についての広く深い理解を促します。

2. 「合意形成の制度化とトランジション・マネジメント」コース（セッション1〜3, 10）

合意形成のさまざまな視点を①初回導入セッションでつかんだ後、合意形成の制度化とトランジション・マネジメントをテーマに、世界・国家、制度、理念・理論など、合意形成の広範・グローバルな視点について学びます。⑥全体総括セッションでは、合意形成の広範・グローバルな視点を、他のさまざまな視点とどう関係するかをセミナー参加者全体で討論します。

3. 「合意形成のアプローチ選択とプロセス設計」コース（セッション1〜5, 10）

合意形成の広範・グローバルな視点からはじめ、地域や自治体、アプローチ選択やプロセス設計、アセスメントなど、リージョナルな視点や具体的な方法論に視線を移します。①初回導入セッションで合意形成のさまざまな視点の見取り図を学び、⑥全体総括セッションで、講師と受講生の間、および、受講生同士の意見交換に参加します。

4. 「合意形成における納得と対話の場のデザイン」コース（セッション1〜7, 10）

広範・グローバルな視点からはじめ、リージョナルな視点を経て、さらに、精緻・ローカルな視点を得るために、合意形成における納得と対話の場のデザインを学びます。①初回導入セッションで俯瞰できる合意形成のさまざまな視点と、セッションでの学びを生かして、グループディスカッションやワークの実践・体験に取り組みます。⑥全体総括セッションでも実践・体験の成果を活かしてください。

① 初回導入セッション（セッション1）

「合意形成学」セミナー全体についてのガイダンスを行います。講師全員が参加して、セミナー全体のねらい、合意形成の複数の視点、各回クラスの概要を解説します。講師および受講生の間の交流の機会も設けます。

② 「討議民主主義と合意形成」クラス

無作為抽出の政治への活用は、古代ギリシャのソーティションという制度にまでさかのぼれます。それが、1970年代になって復活し、近年様々な国で制度化が進んできています。気候変動市民会議は、同手法の応用例として注目されています。G.Smith（2009）は、無作為抽出市民による討議の場を組み込んだ討議民主主義手法をミニパブリックス型と総称しています。ミニパブリックスというアイデアは、それまで理論的関心の対象でしかなかった討議民主主義論を、いかに制度として実現するかという実践的関心の対象に変貌させました。ここでは、ミニパブリックスを活用した討議手法について、代表的手法である討議型世論調査を中心に、その手法の特徴、制度化に向けた課題について考えます。

(1) 無作為抽出市民による討議：社会実験から制度化の動向（セッション2）

ミニパブリックス型の手法は、第一に、一人一票の投票権を持った有権者によって選ばれた代表者グループよりも無作為抽出市民のほうが代表性が高いこと、第二に、このように選出された市民による討議の場は、討議倫理に基づいたコミュニケーションを実現しやすいという二つの前提に基づいています。これらの前提は、先験的に保証されるものではありませんが、適切な手続きに基づいて運用されれば実現することが、研究や実践の中からわかってきています。ここでは、討議民主主義が提唱された歴史的、理論的背景を概説し、ミニパブリックス型の手法が討議民主主義実現において果たす役割、同手法の制度化が進みつつある現状について紹介します。

(2) トランジション・マネジメントと合意形成（セッション3）

科学技術のイノベーションが制度化された現代の社会においては、人々は一生の間に科学技術の発達がもたらす大きな社会変革を経験することになります。科学技術は、行動の可能領域を拡大するので、倫理的判断未定の行動領域が拡大することになります。その影響は、地域や社会階層の境界を越え、将来世代にまで及ぶようになっています。このように、科学技術の影響が及ぶ範囲は、空間的、社会的、時間的に拡大し、複雑化するなかで、不確実性に対応するための手法の一つにトランジション・マネジメントがあります。トランジション・マネジメントでは、無作為抽出市民の役割を明確に論じていません。反対に、ミニパブリックスでは、超長期の不確実問題にどう対処するのかが明確に議論がなされていません。この回では、両者の関係について考察し、両者を相補的に活用する方法について考えます。

③ 「環境政策における合意形成」クラス

持続可能社会の実現に向けてさまざまな環境政策が立案・実行されています。これらは主に国や自治体を中心になって進められますが、住民、企業、NPOなどの多様なステークホルダーが関与することになります。このクラスでは、市民の理解や関与が不可欠となる環境政策について、市民参加のプロセスを設計するための基本的な考え方、脱炭素に向けた再生可能エネルギー事業を題材とした合意形成や環境紛争解決のための方法論について考えます。

(1) 市民参加と合意形成（セッション4）

行政の意思決定に市民参加が必要とされるようになった背景、そこでの社会的な合意形成の意義にふれます。環境政策における合意形成は対象分野（自然環境・生態系、廃棄物、脱炭素など）、意思決定の段階（policy, plan, project）、市民の関心度や紛争状況によって多様なアプローチが求められます。合意形成はプロセスとしてとらえる視点が重要となり、周知・意向収集・意向集約の3つの段階でとらえて、それぞれの方法論を解説します。また、市民参加でしばしば批判される参加者の代表性の問題について、参加者分析を用いた会議設計により循環型社会の合意形成を目指す世界遺産・屋久島の具体事例を紹介します。

(2) 環境紛争と合意形成（セッション5）

脱炭素において顕在化するグリーンジレンマ問題として、再生可能エネルギー事業のNIMBY現象（総論賛成各論反対）をとりあげて、その実態と合意形成に向けた取り組みを解説します。風力と太陽光発電事業にかかわる環境紛争の発生状況について、主な争点、事業特性や立地的要因、住民態度の形成メカニズムについて実地調査に基づく知見を紹介します。合意形成に向けた国や自治体の取り組みとして、環境アセスメント、ガイドライン、ゾーニングなどの環境配慮制度、地域共生型で再生可能エネルギーを導入していく協議会方式による合意形成のあり方を解説します。

④ 「対話の場をデザインする」クラス

「よい話し合いの場」とは、いかに設計しうものか。合意形成を「さまざまな意見から新たな選択肢を生み出すクリエイティブな対話」と捉え、プロセスデザインの基本的な考え方をグループディスカッションやワークを通して学びます。

(1) 合意形成のレジティマシー（セッション6）

レジティマシーとは、社会的正当性、理にかなっていることを指します。話し合いの場のレジティマシーは、参加者の納得や満足を生み出す源泉であり、合意形成のプロセスデザインにおいて核となる価値です。しかし、レジティマシーを損なうリスクは、話し合いのさまざまなステージにおいて生じます。いくつかの場面を想定し、レジティマシーが損なわれない公正で創造的な対話の場のデザインについて、ディスカッションやワークを通して考えます。

(2) 人びとが語り始める場をひらく（セッション7）

話し合いの場を設定したけれど、誰も何も話さない。そういう経験をしたことがある人は少なくないでしょう。せっかく集まった人たちが、テーマについて考え、語り始めるようになるためには、どのような場づくりの工夫が必要でしょうか。講師が開発している声を引き出す話し合いの手法を体験し、人びとが語り始める対話の場のデザインについて考えます。

⑤ 「合意形成マネジメントの技術と戦略」クラス

本クラスでは、不特定多数のステークホルダーが存在する社会的合意形成の技術および戦略について、講師の従事した事例をもとに解説しながら、受講者どうしのディスカッションとともに考察を深めます。

(1) 合意形成マネジメントの技術（セッション8）

合意形成プロセスをマネジメントするうえでの重要な考えは、意見の背後にある理由としてのインタレストであり、さらにインタレストが形成されるに至るまでのステークホルダー個々の来歴です。本セッションでは、合意形成マネジメントの重要な技術として、インタレスト分析のフレーム、話し合いの場のデザイン、ファシリテーションのポイントなどについて解説します。

(2) 合意形成マネジメントの戦略（セッション9）

合意形成は、対立構造が顕在化する前から、情報を収集し、ステークホルダーがコミュニケーションをはかり、合意できる提案をつくりあげていく姿勢が肝要です。本セッションでは、主に講師が従事した地域づくりや環境保全、社会基盤整備事業の現場における実践事例をみながら、合意形成プロセスを適切にマネジメントするうえでの戦略について解説します。

⑥ 全体総括セッション（セッション10）

セミナーを通じて学んだ複数の視点を生かして、合意とは何か、合意形成とは何かについて、セミナー参加者全体で検討します。講師と受講生の間、そして、受講生同士で意見交換を行います。